



シンポジウム開催報告

第35回日本総合病院精神医学会

2022年10月28日～29日にかけて、かつしかシンフォニーヒルズにて、竹内崇先生（東京医科歯科大学病院）・宮田郁看護師（大阪医科薬科大学病院）両座長のもと、「周産期メンタルヘルスにおけるバリアを考える」と題したシンポジウムが開催されました。

はじめに伊藤（順天堂大学医学部精神医学講座）からは、周産期を含めて、改定された統合失調症薬物療法ガイドライン2022の周産期部分について講演しました。次に菊地紗耶先生（東北大学病院精神科）からは、近々公表予定の双極性障害ガイドラインを中心に、現在の情報を要約し検討されました。さらに総合病院において実際に1から周産期メンタルヘルスリエゾンチームを立ち上げた福本健太郎先生（岩手医科大学神経性精神科学講座）が具体的に「バリア」となった多職種連携の重要性などの実践的なお話が語られました。演者の最後に竹内崇先生から、「総合病院に勤務する医療従事者に対する周産期メンタルヘルスに関する意識調査」について報告があり医師や看護師など職種ごとの着眼点の違いなどが指摘されました。後半のディスカッションの場では、参加者から現在直面している問題点や取り組みについて議論されました。会場はほぼ満席となり、盛況のうちに閉会となりました。（評議員/伊藤賢伸/順天堂大学医学部精神医学講座准教授）



シンポ終了後、周産期委員会のメンバーにて

次回学術集会

2023年10月28・29日

東京都千代田区 一橋講堂／大会長

竹内崇（東京医科歯科大学病院）

『多職種で支える周産期リエゾンのバトン ～ 皆の“育つ”“生きる”を支える～』

新シリーズ

周産期メンタルヘルスの現場で専門職はどう動く？

<1> 心理職編（公認心理師・臨床心理士）

周産期領域における 心理職のかかわり

● 外来

- ① 「プレママ・ママのためのカウンセリング」の実施 — 個別カウンセリング、必要時心理検査
- ② 両親学級で周産期メンタルヘルスについて — 心理教育（現在はWeb配信）
- ③ 不妊治療外来・リプロダクション外来 — 生殖心理カウンセリング
- ④ 妊娠からの養育支援（ベアレンティング・サポート） — 多職種連携のシステム作りと運営

● 病棟

- ⑤ 切迫流産で入院中の妊婦さんへの定期ラウンド
- ⑥ NICU：家族ごとに担当心理師を配置、メンタルケア方法を看護師と協議の上、必要時個別対応
- ⑦ 流産、死産ケースのグリーフ・ケア

● その他

- ⑧ 関連委員会、連携会議 — 患者の安全確保対策委員会、地域連携会議企画、運営、参加
- ⑨ スタッフ研修・教育 — 新入職員用、その他職員向けに年2回実施、外部講師による研修会企画
- ⑩ システムづくり、研究・発表 — 周産期における薬剤師のかかわり方について、ICT活用について

多職種・地域連携の一例 ハイリスク妊産婦連携会議



済生会横浜市東部病院・相川祐里（心理室課長）

私は以前、病院で助産師として働いていました。そのため現在、公認心理師として勤務している当院では入職した時から周産期メンタルヘルスを専門領域として働きたいとお願いし、関係各所と相談しながら様々な取り組みを模索してきました。

国家資格である「公認心理師」が制定され、2018年4月以降、原則として診療報酬上評価する心理職の範囲が「公認心理師」に統一されました。ただ心理相談やカウンセリングといった業務そのものの保険点数項目はごく一部のため、心理職が所属する組織の収益に寄与するまでには、まだまだ議論や時間がかかることかと思われます。一方心理職は業務内容や活動場所に比較的自由さがあり、外来や病棟を行き来しながら横のつながりを作れる職種だと感じています。「こころ」という目に見えないものを扱うため、対象者の方にも他職種にも自己紹介が難しい職業ではありますが、ケースを通してのやり取りから、少しずつ協働できる職種としての可能性を感じていただける働きができればと思っています。

<お知らせ> 学会ホームページから会員専用ページが利用できます (<https://pmh.jp/index.html>)
初めてご利用される方は[会員ページ]にログインし、会員登録情報の入力をお願いいたします

企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 情報関連委員会

当学会では会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。
ご意見やご要望がありましたら事務局までお知らせください。